

- 1 派遣期日 平成23年11月12日(土)
- 2 研修先 学校名 筑波大学附属中学校  
所在地 東京都文京区大塚1丁目9-1  
<http://www.high-s.tsukuba.ac.jp/jhs/>

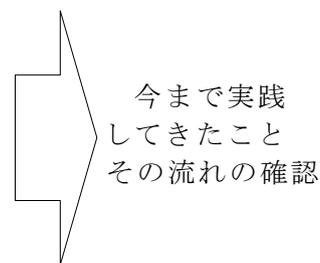
3 研修内容

(1) 全体会(講演)

「言語活動の充実」を行うことの意味

横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター 教授 高木展郎先生

- 「言語活動」とは  
現在、普通の授業等で行っていることである。10年先を見据えて、『未来を創るのに必要な学力』を、教員が専門職として伝えていくことが重要。
- 学力としての思考力・判断力・表現力の育成  
学習活動の基盤となるものは、数式などを含む広い意味での言語であり、その中心となるのは国語である。しかし、だからといってすべてが国語科の役割というものではない。各教科の教育内容として、これらの記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要がある。
- これからの時代に求められる学力としてのReading Literacy
  - ①Reading Literacy 育成するための授業  
「思考力・判断力・表現力」という学力を育成する。
  - ②PISA型「読解力」  
「受信する→考える→発信する」という一連のプロセス。
  - ③Reading Literacy 育成のための授業の具体  
「聴いて→考えて→つなげる」授業  
各教科等における言語活動の充実
- 「聴いて→考えて→つなげる」授業づくりの意味
  - ①あたたかな聴き方、やさしい話し方＝学級づくり＝居場所づくり
  - ②「聴いて→考えて→つなげる」授業の内容
    - ・相手の話に耳を傾け集中して理解すること
    - ・相手と意見を比べたり修正したりしながら自分で考えること
    - ・自分の考えと理由をはっきりさせて発表し、話し合いをつなげて発展させること
- リテラシー(Literacy＝「考える能力」)を高める授業
  - ①友だちと関わろうとする→友だちの発表に対して、自分なりに反応し、反応を返す。
  - ②「聴く」ことの大切さ→「聴く」ことを鍛える。
  - ③学習者が自分の立場に気付く
    - ・「わからない」「こまった」
    - ・自分の立場、考えをはっきりさせる(発表、反応)
    - ・簡単に「わかった」と言わせない→わかったことを説明させる。
  - ④教室における自己相対化の観点の獲得
    - ・自分と友だちの相違や共通について気付かせる
    - ・違いを知ることによって、認め合うことの大切さを気付かせる
    - ・自分自身のよさを自覚させる
  - ⑤「考える」力を高める授業→「考え」たことを、自分の言葉で「説明する」
- 「聴いて→考えて→つなげる」授業づくりの方法  
学校全体で、中学校3年間で育てる 「ティーム〇〇中学校」
  - ①「聴く」ことを鍛える
    - ・聴いていない場合には、授業を止めて、鍛える
    - ・教師が「聴き」上手になる
  - ②「考え」をもつ時間と場を保障する→個の「考える」ことを鍛える→「聴く」と「待つ」



- ・自分なりに「一人学び」をする時間の保証
- ・書きながら「考える」時間の保証

○授業づくりの方法 学習のプロセス

- ①一人で学ぶ（自分の考えの確立・保証）
- ②みんなで学ぶ（教室で学ぶことの意味は、ここにある）
- ③学びを振り返る（具体的な学習への評価＝学習内容についての振り返り）

○授業づくりにおける教師のスタンス

- ①生徒の「説明」による授業→教師が説明をしすぎない（しゃべらない）。
- ②生徒の思考を支える→「考える」ことを支え，うながす発問・指示
- ③生徒の発表を教師がまとめない，奪わない。発言を復唱しない。
- ④生徒の「聴く」ことを鍛える。
- ⑤適切な評価を，授業場面で行う。  
→授業の終わりに，今日の授業で良かったことを具体的に評価する。  
（例）説明の仕方をほめる。
- ⑥生徒の表現活動としてのノート指導の充実
- ⑦教師間の連携による評価
- ⑧生徒同士のクラス・学年を越えての授業参観。授業研究。  
→生徒に授業イメージをもたせる。子どもと一緒に授業をつくっていく。

(2) 公開授業及び研究協議

「書くことと考えること」（第1学年）

筑波大学附属中学校 教諭 飯田 和明先生

○単元名 「書くことと考えること」（第1学年）

○単元設定に関わる課題意識

人が言葉を使って文を書く，そのさまざまな形を経験し，振り返ることで，書くことと考えることを結びつけ，書くことを〈言語活動の構成〉において認知することによって，生徒各自の言語生活の向上につなげたいと考えた。

○身につけさせたい国語の力

- ①文を書いたり書き換えたり書いた文を振り返ったりしながら，思考を展開させ高める力。
- ②書くことを言語生活の中に位置づけ，上記能力を用いていく力。

○学習指導の構想

- ①教材：書くことの経験。いくつかの例文。描写するもの。思考操作に使う文章。
- ②授業の展開

第1次 様々な書くこと→書く対象や形態を変え，様々な書くことを経験する。

第2次 言語活動の構成→様々な書くことを，〈言語活動の構成〉において認知する。

第3次 書くことと考えること→書くことを言語生活の中に位置づける。

○「言語活動」の意味するところ—新しい「学習指導要領」に示された「言語活動」—

「言語活動」という語を巡って，「中学校学習指導要領解説 国語編」の冒頭部からの検討を行ってきたが，その結果，次のことを読み取ることができる。

- ・「言語活動」という語の概念規定は，特段なされていない。それは「話す，聞く，書く，読む」ことと同義，または，その具体化された例として示されている。
- ・「言語活動」という語が示す概念と他の概念との関係は，「指導事項」という語に関して示されており，それは「言語活動を通して指導事項を指導する」というものである。
- ・「言語活動」は，「基礎的・基本的な知識・技能」の「活用」や課題の「探究」において有効に機能するものであり，実生活・社会生活に必要とされるものをその主な内実とする，という認識が示されている。

4 感想

今回の研修で，「言語活動」が注目されている中で，それを行うことが目的ではなく，「言語活動」を通して「思考力・判断力・表現力」を育てて行くことが本当の目的であることを再認識させられた。また，広い意味では「数式」も言語に含まれるという話から，自らの視野の狭さを実感するとともに，現在実践していることが，視点を変えることで，本来の意味での「言語活動」の実践になることを学んだ。